

昭和肥料ニュース

FAX版



Vol. 051

「鉄鋼スラグを利用した水田の土づくり勉強会in高知」が今月開催されました。会場での研究発表や、懇親の場の生産者様情報などから、高温障害・連作障害対策はもちろん、ひいては食の安全保障にケイ酸の施用は不可欠であることを再確認できた催しでした。水稻だけではなく、畑作にもケイ酸施用は今注目です。

生産現場では使用感の満足度が大切

ケイ酸施用の有効性は既に常識ですが、肥料価格高騰の際には施用量削減の対象に挙げられるのが現実です。その理由は主として3つと感じます。

- ①コスト的要因 生産物価格の下落で、トータルコスト圧縮が必要なため
- ②作業的要因 作業する人手や時間が不足しているため
- ③効果的要因 施用したが効果を感じなかった事例があったため

①～③からの「ケイ酸不足」が近年問題となっている高温障害、病害虫被害に拍車をかけています。そのことを踏まえ、以下生産者様にご提案ください。

①には生産面よりも販売面にも目を向けましょう。「収量と品質の安定」が市場からの信用の基なのでケイ酸施用は必須です。プロ生産者こそ必要な資材と分かっているため、継続したケイ酸補給を自信を持ってご提案ください。資材費を削り 収量・品質の低下 → 価格の低下 を繰り返す、負の連鎖にご注意！

②が深刻な問題です。近年は夏からいきなり冬！という妙な天候で散布作業が予定通りいかず、ケイ酸資材を「やりたいけど、やれない」と耳にします。施用適期幅が広い弊社製品なら秋～春の空いた時間で施用できます。また、某販売店では反4袋以上の施用なら散布作業を請け負い、人手不足を補うことで販売を伸ばしています（店員のスキルアップ、モチベーション維持（閑散期に遊ばせない）、顧客接触の機会増加で他資材重ね売り率もアップ などの副次効果があるそうです）参考まで。

③は様々な要因（天候、元々の地力、栽培技術）があり一概に言えませんが、効果を判断するには、3年程度は継続使用することをご指導ください。また、非常に安価な競合資材の中には、ケイ酸の溶出が少ないため大量の施用が必要なケースも多く、①・②と合わせて解決するため、機能性が高い資材の提案がおすすめ（1袋価格は高くとも、トータルコストを抑えるので、結局はお得とご理解いただくこと大切です）

お薦め資材

【昭和ニューエース】



ケイ酸を28%保証、各種ミネラルも補います。高温障害対策や粒張り向上に最適です。畑作の基礎的な土づくりにも好適です、石灰資材の上位互換にご提案ください